

子どもが迷子にならないための！

指導計画の作り方

指導事例:6年生「資料の調べ方」

5. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
表やグラフを用いて考察処理することや論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気づき、進んで活用しようとしている。	数量関係の特徴を表やグラフを用いて調べ、日常の事象について、考察した結果を表現したりする。	資料からグラフをかいたり平均を求めたりして、目的に応じて工夫して表現することができる。	表やグラフについて資料全体の様子や特徴を分かりやすくするために用いることを理解している。

6. 単元の指導計画

時間	単元時間の目標	○主な学習活動	■評価規準 □評価方法
1	「復習問題」「準備問題」	○復習・準備問題に取り組み、平均の出し方やグラフの描き方を想起する。	【関】平均やグラフに表すよさに気づき、進んで問題解決しようとしている。 □ノート・発言
2	情報を整理して、資料の調べ方に興味をもち、意欲的に取り組んでいる。	○散らばりについて知り、数直線上に点で表す。散らばりの特徴やよさを交流する。	【技】散らばりの様子を表すことができる。 □教科書・ワークシート
3	散らばりを表す度数分布表を作ることができる	○前時に作成した散らばりがわかる数直線を用いて、度数分布表を作成する。	【関】グラフを用いて、度数分布表のよさを理解している。 □ワークシート
4	度数分布表のよさを理解し、それを活用することができる。	○度数分布表のよさを理解し、それを活用することができる。	【技】度数分布表のよさを活用することができる。 □ワークシート
5	集団の特徴を把握することができる。	○集団の特徴を把握することができる。	【関】集団の特徴を把握することができる。 □ワークシート
6	「たしかめましょう」	○たしかめ問題に取り組み、表やグラフのよさを再確認しながら解く。	【関】学習内容を確認し、表やグラフのよさを再確認しながら解く。 □ノート

指導事例:2年生「100cmをこえる長さ」

5. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
生活で用いられる長さに関心をもち、身の回りの長さを測定しようとしている。	・普通単位メートル(m)の必要性に気づき、長さの表し方を考えている。	・長さの単位(m)を用いて、身の回りの物体物の長さを測定することができる。	・長さの単位(m)と測定の意味について理解している。 ・1mがどのくらいの長さであるかを身の回りにあるものの大きさを基にしてとらえるなど、長さの大きさについての豊かな感覚をもっている。

時間	単元時間の目標	○主な学習活動	■評価規準 □評価方法
1	身の回りにおける100cmを超える長さに興味をもち、意欲的に長さを測定している。	○両手を広げた長さを測ることで、100cmを超える長さの表し方を考える。	【関】生活で用いられる長さに関心をもち、身の回りの長さを測定しようとしている。 □グループワーク
2	メートル(m)の意味とその書き方を知り、1mを超える長さを測ることができる。	○メートル(m)の表し方を知り、メートル(m)とセンチメートル(cm)を使って長さを測る。	【知】長さの単位(m)と測定の意味について理解している。 □ノート・発言
3	1mがどのくらいの長さであるかを身の回りにあるものの大きさを基にしてとらえるなど、長さの大きさについての豊かな感覚をもっている。	○身の回りにあるものの大きさを基にしてとらえるなど、長さの大きさについての豊かな感覚をもっている。	【知】1mがどのくらいの長さであるかを身の回りにあるものの大きさを基にしてとらえるなど、長さの大きさについての豊かな感覚をもっている。 □グループワーク
4	普通単位メートル(m)の必要性に気づき、長さの表し方を考えている。	○普通単位メートル(m)の必要性に気づき、長さの表し方を考えている。	【知】普通単位メートル(m)の必要性に気づき、長さの表し方を考えている。 □ワークシート・グループワーク
5	測定するものに応じて、適切な長さの単位を選ぶことができる。	○測定するものに応じて、適切な長さの単位を選ぶことができる。	【技】測定するものに応じて、適切な長さの単位を選ぶことができる。 □ノート・発言
6	「たしかめましょう」	○たしかめ問題に取り組み、100cmを超える長さの学習を振り返る。	【技】長さの単位メートル(m)の必要性に気づき、長さの表し方を考えている。 □ワークシート

目標と評価は裏表の関係です
「単元時間の目標と評価規準を考える」
そのあと
「学習活動を考える」が基本!
「こんな活動をするから、こんな目標～」ではダメ!

観点に偏りがありませんか?

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
生活で用いられる長さに関心をもち、身の回りの長さを測定しようとしている。	普通単位メートル(m)の必要性に気づき、長さの表し方を考えている。	長さの単位(m)を用いて、身の回りの物体物の長さを測定することができる。	長さの単位(m)と測定の意味について理解している。 1mがどのくらいの長さであるかを身の回りにあるものの大きさを基にしてとらえるなど、長さの大きさについての豊かな感覚をもっている。

この指導案だと、技能ばかりの授業で知識・理解の評価をしないことになってしまいます!

評価を盛り込み過ぎていませんか?

この指導案だと、1時間の授業の中で技能知識関心の3観点×人数分の評価をすることになってしまいます!

関、考、技、知
4観点のバランスよし!
4観点をどの時間で見とるか、単元全体のつながりを見通して決めましょう!

ひとつの授業で評価はひとつ
子どもたち全員を確実に見とることができるよう評価項目を絞りましょう!

評価規準と指導計画に文言のズレなし!

国研の評価規準から引用しつつ、その時間にあった目標を決めましょう!

ただし...!!!新学習指導要領では、
※すべての教科において4観点→3観点に変更

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等

※国研の評価規準「新学習指導要領版」は令和元年度に刊行されています
上記に記載している参考の指導案の内容は、昨年度までのものです

毎時間の授業を考えるよりも指導計画を考えた方が時短!
既習事項を確認し今後の学びに見通しがもてる!

大人も子どもも、同じゴールを目指すことで「次はこれか!」が子どもたちの口から出てくる!
主体的な学びの第一歩は、「自分がいま何を学んでいるか」がわかること!